

令和4年度 文京区立窪町小学校 授業改善推進プラン 第6学年

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く際に、文と文や、段落と段落の関係性について考えずに書いてしまっているため、何を伝えようとしているかがわかりづらいことがある。伝えたいことが何かを明確にし、筋道立てて書けるようにしていくことが課題である。 話し合い活動では、自分の考えを友達に伝えたり、あまり発展せず、一方通行のまま終わってしまう様子が見られる。友達の発表を受けて助言したり、有益だと思われることを伝えたり、わかりづらいことに質問するなど、話し合いを充実させていくことが課題である。 字形が整わず、漢字を正確に書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことがわかりやすく伝えられるような構成メモを活用していく。 説明的文章を読む際には、接続語などのつなぎ言葉の役割を意識させる。 文と文や段落と段落の関係性について考えさせ学習を進めていく。 既習事項を活用しながら自分の考えが分かりやすく書けるようにしていく。 話し合いによる学習の意義について改めて共通理解を図る。 書写や新出漢字の学習時に、一画一画丁寧に書く指導を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うことが課題である。 事実の読み取りで終わってしまう児童が多く、「社会的な思考・判断・表現」の力に弱い面が見られる。資料等をもとに、客観的な事実に基づいて考えを組み立てていく力の育成が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学習問題を設定できるように、資料や発問を吟味する。 調べる過程を二つに分ける。調べ①では、資料から客観的な事実を読み取らせ、調べ②では、新たな資料提示や発問をすることで、児童に揺さぶりをかけ、より深く社会的事象の特色や相互の関連、意味などを考えられるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の意味を読み取り、正しく立式に結びつけたり、一つの問題に対し、様々な視点から解き方を考えたりなど、数学的な考え方や説明する力の育成が課題である。 全国学力調査結果より、本校の学力の高さが明らかになったが、一方で習熟できていない児童も見られた。補充の指導が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えを導き出す過程に価値をおいて授業を進め、考えたり表現したりする楽しさを味わわせながら数学的な考え方や説明する力を育てる。 つまずきの見られる児童のために、習熟度を測る際に、きちんと、本人の学力、意思をしっかり図り、適切にクラス分けしていく。また、学習後の振り返りでは、未習熟児童のために個別指導なども行うことも必要である。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習の問題を設定し解決しようとする態度を養うことが課題である。 実験や観察において、自分の目でしっかりと確かめながら考察にまとめることに課題がある。 自分の経験や生活と結び付けて予想や考察を書くことに課題がある。 予想から考察までの一連の問題解決的な思考が身に付くようにすることが課題である。 計画に沿って正しく実験器具を操作することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学習問題を設定できるように、発問や事象提示を工夫する。 観察の視点を明確に示し、その視点に沿ってじっくりと観察できるようにする。また、互いを思いやる言葉かけを促していく。 結果をもとに、個人でじっくりと考察に取り組ませる。 毎時間の授業の流れを予想から考察の一連の流れに統一し、ノートの形式等を工夫する。 予備実験を行うとともに、計画の段階で安全について考えさせる。また、実験終了後、実験方法などについて振り返りを行わせる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢の保持ができないなど基礎体力や体の使い方に課題が見られる。 動き方や体の使い方などの上達するポイントを意識させることが課題である。 友達の動きを参考にし、自分がどう動けばよいのかを考えながら活動できるようにすることが課題である。 運動をすることの日常化をしていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを使って映像を撮影したり、友達と互に見合う活動を取り入れたりとすることで、客観的・視覚的に自分の体の動きを理解できるようにする。 技能のポイントを自分たちで見つけられるような資料を吟味する。 気付いたことや理解したことを次時につなげられるように体育ノートを活用しふり返りを行う。 各領域の授業において、運動の特性を生かした魅力ある授業づくりをしていく。

道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値を的確に理解し、それからずれることなく一貫した指導を行っていくことが課題である。 ・道徳的価値に対する自分の考えを表現できる児童と表現が苦手な児童がいる。価値について深く考え表現していこうとする力を養うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領の内容について理解を深め、教材と照らし合わせて、ねらいとする道徳的価値を明確にする。そして、それをもとに発問構成やその他指導の工夫を考えていく。 ○取り上げている道徳的価値を自分事として捉えられるような教材提示や発問構成を考えていく。また、自己について振り返る際に、アンケート結果を使ったり、日常の児童の様子を写真に撮った物を提示したりして、自己についてしっかりと考えられるようにする。 ○自由に書き込めるワークシートを活用し、様々な考えがでるよう促す。表現が苦手な児童には、視点を与え、自分の考えを書きやすいようにする。
----	---	--